

平成19年度第3回いわき市廃棄物減量等推進審議会議事録

日 時	平成20年3月26日（水） 14時00分～16時00分
開 催 場 所	いわき市文化センター 2階 大会議室
事務局担当課	生活環境部 環境整備課
出 席 委 員	大川会長、渡邊委員、飯田委員、石川委員、岡田委員、神崎委員、佐藤委員、鈴木（正）委員、高木委員、武田委員、富永委員、長沼委員、原田委員、広木委員、和田委員、藁谷委員
議 題	1 平成19年度第2回いわき市廃棄物減量等推進審議会議事録（案）について 2 協議事項 (1) 平成20年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画について (2) その他
配 布 資 料	① 平成19年度第2回いわき市廃棄物減量等推進審議会議事録（案）について ② 参考資料1「平成18年度原価計算資料」 ③ 参考資料2「一般廃棄物処理システム評価結果」 ④ 参考資料3「平成19年度におけるごみ減量等施策の成果」 ⑤ 「一般廃棄物処理実施計画の法的な位置づけ」 ⑥ 平成20年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画（案） ⑦ 平成19年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画

主 な 審 議 内 容

【会議の進行方法について】

1 会議の成立について

事務局より、「委員18名中16名の出席があり、いわき市廃棄物の減量及び適正処理等に関する規則第31条第2項の規定による過半数を満たしており、会議が成立していること」が報告された。

2 審議の公開について

公開による審議について、委員から承諾された。

3 議事録の記述形式について

議事録の記述形式については、「要点記述方式」によることが承認された。

【議事録承認】

事務局から提出のあった「平成19年度第2回いわき市廃棄物減量等推進審議会議事録（案）について、原案どおり承認された。

前回議事録（案）に関係して、前回会議における委員からの質問のうち回答できなかった事項について、事務局から資料の提出があり、これに対して、次のとおり質疑があった。

○ **大川会長**

「参考資料1 原価計算資料」について、平成18年度の状況が示されているが、過去数年間遡って、経年変化がわかるようにして欲しい。

○ **小川リサイクル係長**

過去5ヵ年程度の資料を作成し、お示しできると思う。

○ **大川会長**

了解した。次に、「参考資料2 一般廃棄物処理システム評価結果」についてだが、この中で、手数料負担率は、低いほど良いということか。

○ **小川リサイクル係長**

その点は議論が分かれるところであるが、手数料負担率が低いということは税負担率が高いということであるので、今回は、手数料負担率が高いほど良いという設定としたものである。

○ **大川会長**

それでは、1人当たりの年間ごみ処理経費だが、これは低いほうが良いのか。

○ **小川リサイクル係長**

そのとおりである。

○ **大川会長**

次に、ごみ排出原単位であるが、これは低いほど良いというわけであるが、経済活動や地域の社会事情、情勢によって違ってくるわけであるが、いわきはまあまあという状況だと思う。それから、リサイクル率、これは高いほどよいわけだが、いわきは少し平均より低い状況にある。次に、最終処分率だが、これは低いほどよいのか。

○ **小川リサイクル係長**

最終処分率が低ければ、埋立処分される量が少ないということであり、良いということになる。

○ **大川会長**

この図の見方はわかった。「ごみ排出量原単位」の目標値が青いプロットで119.26と数値が出ているが、これは「ごみ排出量原単位」の目標値でということか。

○ **小川リサイクル係長**

中核市平均を100とした場合の本市の目標値の評価値を表したものである。

○ **大川会長**

すると、平均との乖離がありすぎるという見方はできないことになるか。

このグラフに、このデータのプロットを入れるのは不適切ではないか。実績との乖離を示すなら良いが、平均との乖離という意味では評価としては意味をなさないと思う。

○ **小川リサイクル係長**

了解した。

○ **大川会長**

この資料は、大変利用価値の高い資料である。今後、各種施策を検討する際に、利用できるものである。

○ **大川会長**

最終処分率において、秋田市が極めて良い評価となっており、0.65%となっているが、この要因は何か。

○ **小川リサイクル係長**

秋田市においては、ごみ焼却施設から発生する灰等の残渣を大部分再資源化しており、これにより埋立量の極小化に成功していると聞いている。

○ 飯田委員

その他減価償却費等には、公債費が含まれているとの説明があったが、公債費はどのくらいの額か。

○ 小川リサイクル係長

次回、お示ししたい。

○ 岡田委員

横須賀市のリサイクル率が高い要因は何か。

○ 小川リサイクル係長

秋田市同様、焼却残渣のリサイクルを進めている結果と聞いている。秋田市もリサイクル率は34.5%でありやはり高い値となっている。

【協議事項】

(1) 平成20年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画について

環境整備課リサイクル係長から、「参考資料3 平成19年度におけるごみ減量等施策の成果」及び「平成20年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画（案）」について、説明があった後、質疑応答となった。

○ 藁谷委員

実施計画案17ページにボトルキャップの資源化があるが、現在、これは家庭からの排出については「燃えないごみ」に区分されると思うが、それで良いか。

○ 小川リサイクル係長

確かに、金属製のボトルキャップを家庭ごみとして排出する場合、「燃えないごみ」に分別している。市民の皆様の中には、キャップを外さずにかん類を排出する方がいらっしゃるようであり、かん・ペットボトルの選別処理残渣として、キャップが発生してしまう状況にある。これを再資源化に供しているものである。

○ 藁谷委員

では、金属製のボトルキャップを「燃えないごみ」ではなく資源ごみとして分類できないのか。

○ 小川リサイクル係長

今後の検討課題である。

○ 藁谷委員

了解した。

○ 石川委員

減量化についてであるが、排出時の量を減らすことに重点を置くのか、それとも、資源としてリサイクルすることによる減量化に重点を置くのか、確認したい。

また、減量化の今後の展望についてであるが、既に事業系古紙の再資源化促進などにより、減量化は限界に達してきているのではないか。これ以上の減量化を進めるには、生ごみの減量化・資源化しなく、これ以外の施策では困難な状況ではないかと思うがどうか。

○ 小川リサイクル係長

第1に、各種のごみ減量化施策の根本は、3Rの推進にあると考えているところである。

減量化が限界に達してるのではということであるが、参考資料3にも示したとおり、家庭ごみの中には、例えば古紙が分別不徹底により、相当量（14.5%程度）混入されており、限界にあるとは考えていない。また、リデュースを浸透させることにより、さらなる減量化を期待しているところである。

- **石川委員**
ということは、排出時点での減量化を図っていくということか。
- **小川リサイクル係長**
そのとおりである。
- **石川委員**
了解した。
- **飯田委員**
生ごみについてだが、生ごみ処理機の購入者への補助金の制度があると思う。平成18年度の制度の利用状況について聞きたい。また、この制度が始まってからの累計の数値も聞きたい。
- **小川リサイクル係長**
平成18年度の利用件数は198件である。累計であるが、平成19年度の第3四半期までで、1万8百件程度だったと思う。
- **飯田委員**
年間で250件という制限があったと思う。件数はこれに達していない状況にある。これはPRがまだ足りないということか。
- **小川リサイクル係長**
効果的なPR方法について今後考えていきたい。
- **飯田委員**
こういった制度は、制度を知っている方しか利用できないわけであるが、市のホームページ上で、当該制度の情報を探ろうとすると色々なところを開かないとたどり着かない。ホームページ上で生ごみ処理機の補助制度の情報を得やすくしたほうが良いと思う。
- **武田委員**
生ごみ処理機の使用には、購入費用以外にランニングコストもかかる。ランニングコストの情報も提供すべきである。
- **鈴木（正）委員**
所属する団体で、ごみ対策について、様々に取り組んでいるが、市の啓発パンフレット等を基に、ごみ減量化等の具体的な取組みをまとめた資料を作成しているところである。また、ごみ減量に関するアンケートも実施している。その結果からだが、いわき市の人口は減ってきている、一方で、高齢者の人口は増える傾向にある。特に一人暮らしのお年寄りも多くいらっしゃる。そのような立場の方々にとっての困り事として、「市の規格袋制によるごみの排出」がある。1人所帯でありごみの発生量が限られている。袋が満杯となるまで置いておくのは臭いも発生し、大変である。レジ袋のような小さな袋でも出せるようになればという意見があった。これについては、どのように考えているのか。
- **吉田課長**
ごみの袋の大きさについては、他自治体によっては小さなサイズの袋を採用しているところもあると聞いているところであるが、費用対効果などの諸課題もあることから、委員ご質問の件については今後の検討課題としたい。
- **神崎委員**
実施計画案3ページの表のうち目標量等についてだが、基本計画の目標・指標としては1人1日当たりの排出量であるが、この表で示されているのは、総量となっている。基本計画の指標と同様の単位で示してもらいたいと思う。
また、9ページの表で、ごみの種類によっては、収集の回数が年2回と少ない品目がある。参考資料3にある組成分析の結果について、特に分別不徹底物だが、分別頻度を増やせばよいとの感想

をもったか、所感が知りたい。

最後に、硬質プラスチックを燃えるごみに分別変更し、焼却するようになったようであるが、これにより焼却施設へ何か影響が発生していないか、聞きたい。

○ **小川リサイクル係長**

まず、指標についてであるが、平成19年度の排出見込み量を1人1日当たりに換算すると、およそ1,100グラムという数値になる。また、平成19年度のリサイクル率も19%程度が見込まれている。

また、組成分析の結果から、未だ分別徹底の余地があると考えている。当該結果は、市内に全戸配布するごみ減量情報誌「クリンピーのこえ」に掲載し、市民への啓発に利用したところである。

○ **稲野辺環境整備係長**

収集頻度についてであるが、家庭から出るごみの量に応じて、種類ごとの頻度を設定しているところである。排出量の多い、例えば、燃えるごみについては収集頻度を多くし、少ないものについては、収集頻度を少なく設定している。そこで、収集頻度を増やしても、もともと排出量が少ないものに対して収集頻度を多くしても費用対効果が期待できないものと考えている。

なお、乾電池については、規格袋の使用を義務付けておらず、排出の利便性について考慮しているところである。

○ **澤田主幹**

硬質プラスチックの焼却についてであるが、まず、当該物を焼却処理に変更した場合の施設への影響について、メーカー側の問題ないとの見解を示しながら、改選前の本審議会委員において、そのメリット・デメリットについて御協議いただき、委員各位の御承認を得て実施したものである。

検討に当たっては、局所燃焼などの発生による施設への影響が懸念されたことから、焼却する際に他のゴミと攪拌燃焼することとし、今後とも施設への影響を十分検証していくこととしたものである。

○ **和田委員**

分別不徹底の解決策として、「クリンピーのこえ」などを利用しているようだが、ほかに方策は何か検討しているのか。

○ **小川リサイクル係長**

平成20年度に「ごみの分け方・出し方ハンドブック」を作成し、市内全戸に配布する予定である。

○ **高木委員**

分別方法を変更する際には、市役所の職員が各地区に赴き、分別の仕方について説明をした。あれから、年数がたちそのときの記憶が薄れてきている状況にあると思う。もう一度、同じような説明会を開いてはどうか。

○ **小川リサイクル係長**

現在でも、要請があれば説明に伺う制度がある。

○ **大川委員**

今の指摘は、要請に基づくだけでなく、市側から能動的に説明会を開くという意味合いもあると思うので、その点も考慮願いたい。

○ **小川リサイクル係長**

了解した。

○ **原田委員**

実施計画案に記載されているごみ減量等施策について、平成19年度の実施実績（例えば、出前講座を何回開催したか）とその評価・課題点などを示してもらえるとわかりやすい。

○ **大川会長**

平成19年度の実施計画と平成20年度の実施計画案を比較すると、平成20年度の計画案における施策体系は基本計画の施策体系に合わせて体系ごとに整理されており、改善がみられる。

一方で、委員御指摘のように、実施施策の実績とその評価が必要だと思う。

なお、実施計画案の7ページに「ごみ処理手数料のあり方の検討」とあるが、これが、次年度以降の重要な検討・審議事項になると思う。

検討において留意いただきたいこととして、「市民に分かりやすく説明してほしい」ということに注意してもらいたい。このような費用がかかるから、また、財政状況だから、手数料をこのように改定するのだということ、明示するようお願いしたい。

○ **吉田課長**

これまでは、実施計画案や施策の実施状況について、本審議会で審議していただくようなことはなかった。一方で、今後は、基本計画の目標へ向かって、施策の実施結果の評価検証や実施計画の策定について、審議会の委員の皆様へに審議いただくという考えで、今回、実施計画案を提案した次第である。施策の実施状況等については、次回審議会に提出したいと考えている。

また、手数料のあり方の検討についてであるが、御意見のとおりであり、十分考慮していきたい。

○ **大川会長**

実施計画3ページの表について、「可燃ごみ」等、ごみの種類ごとに小計を表示するなど分かりやすくする工夫をお願いしたい。

○ **広木委員**

ごみ処理の現場を見ることにより、本市のごみ処理の実態をより理解することができると思う。是非、次回以降、会議前などに、例えば、委員を対象とした南部清掃センターの見学などを入れてもらおうとありがたい。

○ **吉田課長**

実は、改選前の委員による本年度第1回審議会においては、「リサイクルプラザクリンピーの家」の現場見学を、会議の開催前に行った経緯がある。御意見については、今後とも、考慮していきたい。

○ **富永委員**

マイバックキャンペーンについてだが、店頭でマイバックを配布するというだけではなかなか効果があがらない。古着などをつかったオリジナルのマイバックを作成させるなど、工夫が必要である。

また、レジ袋を使用しないお客様に対する様々なサービスの制度を大手スーパーなどで既に行っているわけであるが、これをさらに広めていくためには、中小の小売店や特にコンビニエンスストアとの連携を図ってってもらいたいと思う。自治体によっては、レジ袋の全面有料化を実施しているところもあり、様々な施策を検討すべきである。

さらに、今朝の新聞に掲載されていたと思うが、生ごみ処理機から発生するメタンガス、これが二酸化炭素の21倍の温室効果を持っているということであった。廃棄物を減らすことも重要ではあるが、地球温暖化の防止という観点も含めたかたちでの施策検討をお願いしたい。

○ **武田委員**

マイバックについてであるが、埼玉県戸田市では、企業から広告料を得て、市のイベントで配布するマイバックを作成しているようである。こういったことも考えられると思う。

○ **飯田委員**

福島テレビで2月にダンポストという段ボールを用いた生ごみ処理機が売り出されたという報道

があった。これは安価であり、市内の引き合いもあると思う。

○ **武田委員**

家庭で、段ボールをもらってきて、米ぬかなどと混ぜて発酵させれば済むことであり、費用を出して購入するまでのものではないと思う。

○ **大川会長**

様々な意見が出たが、議論はここまでとしたい。事務局の提出した実施計画案に審議会として承認を与えてもよいか。

○ **大川会長**

異議なしとのことであるので、市では本審議会の意見を参考に実施計画を制定し、施策を進めていただきたいと思う。

(2) **その他**

委員、事務局から、その他協議事項の提案は無かった。